

自己点検・評価 様式(平成26年度実施)

大学名 千葉大学

研究科・専攻名 医学薬学府先端医学薬学専攻

入学定員 108名(医学領域含む、薬学領域としては8名程度)

○ 入学者数、在籍学生数

※入学のコースを別に設けている大学は、コース別に記載すること。

※「旧4年制薬学部出身」は、平成17年度以前に薬学部に入学した学生を指す。

・ 入学者数

平成24年度 : 8名

内訳 : 6年制薬学部出身 7名 (内社会人 名、留学生 名)

4年制薬学部出身 名 (内社会人 名、留学生 名)

旧4年制薬学部出身 名 (内社会人 名、留学生 名)

薬学部以外出身 1名 (内社会人 名、留学生 名)

その他 名

平成25年度 : 10名

内訳 : 6年制薬学部出身 8名 (内社会人 名、留学生 名)

4年制薬学部出身 名 (内社会人 名、留学生 名)

旧4年制薬学部出身 1名 (内社会人1名、留学生 名)

薬学部以外出身 名 (内社会人 名、留学生 名)

その他 1名 (留学生1名 外国の大学を卒業)

平成26年度 : 9名

内訳 : 6年制薬学部出身 6名 (内社会人 名、留学生 名)

4年制薬学部出身 1名 (内社会人 名、留学生 名)

旧4年制薬学部出身 1名 (内社会人1名、留学生 名)

薬学部以外出身 1名 (内社会人 名、留学生 名)

その他 名

・ 在籍学生数 (平成26年5月1日現在) 26名

※平成24年度入学者1名退学

○「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と実際に行われている教育との整合性

○理念とミッション

千葉大学は、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を行う。薬学は総合的な応用科学であり、その研究により得られた知識や技術などの成果をもって人類の健康、福祉に貢献することを目的とする。基礎的研究成果の臨床医学や健康増進への展開、生命創薬科学の発展、疾病構造の変化に的確に対応した医療システムの構築、全人的視野に立った医療従事者、医学・薬学の知識を持つ専門家や先端的生命科学研究者の育成を目的とする。

「自己点検・評価」:上記の理念、ミッションは、「薬学系人材養成の在り方に関する検討委員会」から提言された内容に合致し、臨床医学、医療システムを目的としている点で4年制薬学部を基礎とした博士課程とは異なり、相応しいものと認められた。

○アドミッションポリシー

千葉大学大学院医学薬学府先端医学薬学専攻は、医学・薬学並びに関連分野において創造的・先端的研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識、全人的視野を有する医療従事者、生命科学研究者を育成することを目的としている。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と先端的医学・薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めている。

「自己点検・評価」:上記のアドミッションポリシーは、現在4年制博士課程に入学している学生の実態と合致しており、設置目的を反映した相応しいものと認められた。

○カリキュラムポリシー

医学・薬学並びに関連する専攻分野において、多様な研究・教育機関の中核を担う研究者もしくは大学教員を目指す学生が、自ら研究課題を設定し、自立した研究活動を行う能力を修得する教育課程を編成し、提供する。

医学・薬学並びに関連する専攻分野において、教育研究者、高度専門職業人あるいは国際的指導者として、自ら課題を設定し、地球規模の視点から知的活動を行い、社会に貢献する能力を修得する教育課程を編成し、提供する。

医学・薬学並びに関連する専攻分野の学位論文研究において、新しい知見や価値の創造に主体的に関与する機会を提供する。学位論文研究において、具体的な研究計画の策定、研究成果の評価を踏まえた進捗管理の実践を体験する機会を提供する。

医学・薬学並びに関連する専攻分野の学位論文研究において、共同研究者や研究協力者などと専門領域の情報・知識を共有し、指導的立場に立って協調・協働して研究を推進する機会を提供する。

「自己点検・評価」:上記のカリキュラムポリシーは、実施されている医療現場や医療システムに関わる教育と整合しており、かつ4年制博士課程の設置主旨に合致したものであり、相応しいものと認められた。

○ディプロマポリシー

- 「自由・自立の精神」 医学・薬学並びに関連する専攻分野において、多様な研究・教育機関の中核を担う研究者もしくは大学教員を目指す人材として、積極的に自立した研究活動を行うことができる。
- 「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」 医学・薬学並びに関連する専攻分野において、地球規模の視点を持ち国内外の社会と連携して自ら課題を設定し、積極的・自立的な研究開発を行うことができ、その成果を国際的・学際的に発信できる。また、教育研究者あるいは国内外の機関の指導的人材として活動するための基礎として、多様な文化・歴史に対する理解を有する。
- 「専門的な知識・技術・技能」 医学・薬学並びに関連する専攻分野において、創造性に富む高度な研究・開発能力と豊かな学識を持ち、新たな知見や価値の創出に貢献できる。また、幅広い専門的知識や研究遂行能力を活かして高度な研究開発プロジェクトの企画・管理等を行うことができる。
- 「高い問題解決能力」 医学・薬学並びに関連する専攻分野の情報・知識を他者と共有しながら指導的に協調・協働し、知識基盤社会を支える新たな知見や価値を創出することができる。

「自己点検 評価」上記のディプロマポリシーは4年制博士課程の設置主旨に合致したものであり、4年制薬学部を基礎とした博士課程のものとは異なり、相応しいものと認められた。

- ・ 開設年度の自己点検・評価に記載した「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と、実際に行われている教育との整合性について、4年制薬学部を基礎とした博士課程の教育課程との違いを明確にしつつ、自己点検・評価を行うこと。

○ 入学者選抜の方法

- ・ 学力検査（外国語、専門科目（筆答試験）、面接試験）及び成績証明書等を総合的に評価して選抜する。
- ・ 4月入学、10月入学を併用しており社会の要請にこたえるよう努めている。

「自己点検 評価」上記の入学者選抜の方法は学力の確認を行うのに適切であり、入学時期の多様化に対応できる、相応しいものと認められた。

○ カリキュラムの内容

設置されている授業科目は、別紙「教育課程等の概要」に示すとおりである。本学は医学薬学教育の連携を10年以上前から実施しており、博士課程教育に相応しいきわめて豊富な内容のカリキュラムとなっている。

「自己点検 評価」カリキュラムの内容は、本学府の理念に基づくものであり、高い水準にあり、相応しいものと認められた。

- ・別途シラバス及び教育課程等の概要(別紙様式第2号)を添付すること。
- ・履修モデルを添付すること。

○ 全学生の研究テーマ

- ・CYP2Cヒト化マウスの薬物動態研究における有用性に関する研究
- ・コネキシンのスニチニブ感受性増強作用に関する薬理学的研究
- ・天然物由来酸性多糖類の構造と機能
- ・メチル化ヒ素化合物の体内動態と毒性発現機序
- ・患者ニーズに対応する医薬品情報提供書の開発
- ・EP4受容体発現とHIF-1α発現との関連性の解明
- ・造血腫瘍においてEzh2と協調して働く遺伝子群の解析
- ・心筋梗塞後の心不全における制御性T細胞の役割
- ・核内受容体研究におけるスフェロイド細胞の有用性に関する研究
- ・保険薬局における有効なセルフメディケーション支援に関する研究
- ・有機ナノチューブに封入されたイブプロフェンの溶解性評価
- ・抗体のインジウム標識に有用な新規三官能性キレート試薬の開発
- ・せん妄モデルマウスの構築とその評価
- ・新規KopsiaアルカロイドKAM1の不斉全合成研究
- ・血管平滑筋細胞増殖抑制のメカニズムに関する研究
- ・活性化型Src型チロシンキナーゼによる細胞周期への影響
- ・がん細胞における新規チロシンリン酸化シグナルの探索
- ・肺線維化の細胞内シグナリング・転写因子機構の解明
- ・ヘッジホッギングシグナルに作用する生物活性天然物の探索
- ・チロシンキナーゼc-Srcの細胞小器官における機能解析
- ・ウイントシグナルに作用する生物活性天然物の探索
- ・Src型チロシンキナーゼの局在および細胞内輸送経路の解析
- ・有効な薬剤選択及び投与設計のための医薬品情報の構築
- ・細胞周期間期におけるチロシンリン酸化シグナルの機能解明
- ・光線力学治療の評価に有用なPETプローブの開発
- ・ジンクフィンガー型転写因子Lastinの細胞増殖における役割

- ・一学生あたり30字以内で記載すること。

○ 医療機関・薬局等関連施設と連携した教育・研究内容

医療機関・薬局等との連携により4科目の大学院講義を開講している。

- ・医薬品作用学特論では、医療現場が直面している薬物治療学的な問題や、薬剤管理指導業務、臓器移植医療における貢献、治験管理業務等高度化・多様化する薬剤師業務を紹介し、医療の安全性と質の確保、合理的薬物療法とは何か、等を講義している。
- ・高齢者臨床薬剤学特論では、高齢社会における医療提供体制の展望と将来像の他、分子薬理学や細胞生物学の進歩、医療にどのような変革をもたらすかについて、ジェンダーを意識した高齢者の薬物療法、病態と薬剤選択など高齢者の薬物療法を例に、必要となる薬効・安全性理論、医薬品の適正使用等を講義している。
- ・臨床医薬品学特論では、医薬品の副作用、妊婦に対する薬物療法等に関して、千葉大学附属病院並びに関連病院の医師との連携により臨床に則した講義を行っている。
- ・適正化臨床薬剤学では、高齢者における薬物動態の変化、認知症の病態進行と治療、トランスポーター機能の個人差と疾患・薬物療法、骨代謝疾患の治療等に関して、大学病院などの医療機関等と連携し講義している。

研究においては医師、看護師などの協力を得て、患者ニーズについての研究、有効な薬剤選択・投与設計についての研究が進行している。

- ・ 他職種との連携も含む。
- ・ 研究科又は専攻全体の教育研究活動と関連づけて具体的に記載すること。

○ 学位審査体制・修了要件

・ 4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、論文博士の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。なお、各コース毎に以下の科目区分開講の必要単位を修得する必要がある。

先端生命科学コース、免疫統御治療学コース及び先端臨床医学薬学コース：共通基盤講義科目 1 単位、系統講義科目 2 単位以上、展開講義科目 2 単位以上 計 30 単位以上

がん先端治療学コース：共通基盤講義科目 1 単位、系統講義科目 4 単位以上、展開講義科目 8 単位以上 計 30 単位以上

- ・学位論文の全文又は一部について、査読制度の確立した学術雑誌に 1 報以上の筆頭著者として公表された（公表予定を含む）英文の原著論文がある者。

「自己点検 評価」学位審査体制は透明性があり、修了要件にピア・レビューのある英文・学術誌（筆頭著者）への発表を課しており、適切なものと認められた。

○ 修了者の進路の基本的な考え方(※新規事項)

研究機能を備えた病院の薬剤師に加え、産官学の研究職や大学教員、留学等が想定される。また、既に薬剤師として働いている社会人については、病院等で高度の医療薬学分野での活躍が期待される。想定する修了後の進路について以下に示す。

・先端生命薬学研究・教育者、製薬企業研究者、行政担当者(薬事・医療・福祉・環境等)、高度先進免疫医療従事者、先端臨床薬学研究・教育者、治験実施検査官／プログラマー(治験担当専門家)、がん先端治療従事者、がん研究・教育者

- ・ 修了者の進路について大学がどのように考えているか、あるいは進路の開拓についての大学の基本的な考え方等を記載すること。